令和3年度　学校評価総括表　　伊丹市立池尻小学校

教育目標	『すべての子どもを幸せに』～豊かな心を持ち自立してたくましく生きる児童の育成～
重点目標	・「生きる力」を育み未来への道を切り拓く力の育成（生涯にわたる可能性とチャンスを最大化）　・子どもたちの学びを支える環境の充実

項目		重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
学力の向上	基礎基本の徹底と授業改善	・基礎的基本的な知識技能を習得させる。 ・授業力の向上と授業改善をめざして校内研修会を実施する。	・宿題や課題を最後までやりきらせるよう支援する。 ・漢字や計算などの小テストを実施する。 ・めあてを提示し、ふり返り等で理解を確認しながら授業を進める。 ・校内研修として、すべての教員が年１回以上授業公開する。 ・他校の研究会に一人一回以上参加できる体制を整える。	・課題の提出率が90%以上になる。 ・朝学習を利用して算数（火曜日）国語（水曜日）に小テストを月４回実施する。 ・児童アンケートにおいて「めあて」「ふりかえり」を行ったとの回答が８０%以上になる。 ・すべての教員が年１回以上授業を公開する。 ・児童アンケートにおいて「先生は教え方に色々工夫している」との回答が90%以上になる。 ・他校の研究会に一人一回以上参加する。	A	・教職員アンケートの「宿題や課題の提出率が90%以上になっている。」が97%、児童アンケートの「宿題は毎日忘れずにしている。」が91%と良い結果が得られた。 ・朝学習においては火曜日に算数、水曜日に国語を行う習慣がついてきており、その為の小テストやプリント学習なども実施できている。 ・学習の「めあて」「ふりかえり」については、研究からのアンケートで「めあて」については90%を超えているので、概ね実施できている。「ふりかえり」については、口頭または筆記で行っているが、定着してきている様子である。 ・すべての教員が年1回以上の授業公開はコロナ禍の影響で実施しにくい状態であった。〔オンライン授業になった〕 ・児童アンケートの「先生は、教え方に色々工夫している」の結果が97%になった。 ・他校の研究会にオンラインを含めて一人1回以上参加する機会を儲けることができた。	・コロナウィルス感染防止のために様々な制約があったにもかかわらず、その中でできる授業公開や学習内容の工夫をすることができた。タブレットを使った学習やzoomを使ったオンライン授業を利用して学習を進めることもできた。 ・朝学習の算数・国語・朝読書については習慣がつき、行うことができているので、今後も引き続き朝学習の時間を有効に使う工夫をする必要がある。 ・「めあて」と「ふりかえり」については、研究と連携を取りながらそのやり方の工夫や実施方法を考えて日常徹底を目指した取り組みを続けていく必要がある。 ・一人一台のタブレット配布により学習方法は様々やり方が考えられる。その為に教師側の情報共有や情報提供などを大切にしながら授業に取り入れるようにする。 ・積極的に授業公開をし、他校の研究会に参加するようにする。	・「先生は教え方に色々工夫している」の項目について肯定的評価がされているので、引き続き工夫を凝らした授業をお願いしたい。 ・学びの定着を「振り返り」で言語化し、自ら確認できるようにするとよいのではないか。
	学習意欲の向上	・わかる授業をすることにより学習意欲を向上させ、達成感を味わわせる。 ・読書活動を充実させ、自ら学び探求する心を育てる。	・NIEやICTを活用した分かる授業を実施し、学習に対する興味・関心を喚起する。 ・全校一斉の朝読書の時間を週３回実施する。 ・読書記録カードを活用することで読書意欲の向上を図る。	・児童アンケートにおいて「授業はわかりやすく楽しい」との回答が90%以上になる。 ・ICTを利用した授業を週に1度以上行う。 ・週60分以上の読書量を確保する。（朝読１０分×３回　図書） ・意欲的に読書しようとする児童が増える工夫をする。	B	・児童アンケートの「授業はわかりやすく楽しい」がAが61%Bが32%で、合計が93%となった。 ・ICTを利用した授業を取り入れたり、学習にタブレットを取り入れたりする活動も増えてきて、今では日常に利用するようになってきている。 ・朝読書や図書の時間で、週60分の読書時間は確保することができている。 ・児童アンケートの「家で読書をしている。」の結果が、68%、保護者アンケートの結果が50%と低い結果になってしまっている。 ・コロナ禍の影響で本年度も読書ボランティアの読み聞かせが実施できなかった。 ・先生のお勧めの本の紹介や図書委員会からのお知らせを行うことができた。	・昨年度の結果でAが57%であったのが本年度には61%と良い評価が増えていることから、タブレットを利用した学習をすることが、楽しい授業に繋がっていると考えられる。今後も、タブレットを利用した授業つくりを研修する必要がある。 ・家庭での読書の機会を増やすように、学校側が工夫する必要がある。 ・読書記録カードを利用して読書意欲の向上に勤めるとともに、図書委員会や図書ボランティアと連携をとりながら、本を読む楽しさを伝え、読書への興味関心を持たせる。	・読書ボランティアの読み聞かせの充実が必要。 ・児童が求めるより多くの本があると読書しようとする意欲の向上につながるのではないか。 ・家庭での学習や読書環境について、保護者の協力を求めるための情報発信も必要ではないか。 ・タブレット授業がスタートし、今後も教員のスキルの向上を図っていく必要がある。 ・学級閉鎖等があった際、Zoomを活用したオンライン授業があったのがよかった。
	特別支援教育の推進	・個に応じた支援計画を立て適切に実施する。	・発達検査や診断を受けた児童を中心にサポートファイルを作成する。 ・必要に応じてケース会議をもち適切な対応や支援をする。	・ケース会議を随時、校内委員会を月１回行いニーズに応じて組織的な支援体制を構築する。 ・校内研修を年に2回以上行う。	A	・月に1回校内委員会を行い、各学年の児童の実態について情報交換することができた。 ・必要に応じて、ケース会議や就学指導委員会などを行い、児童の実態把握や今後の対応について話し合うことができた。 ・「まなびルーム」を新設して、児童の実態に応じた学習指導を行うことができた。 ・サポートファイルの作成を行い、学期ごとの個別の計画や成果を記録した。 ・校内研修で年に2回全職員で研修会を持つことができた。	・月1回の校内委員会に加えて、必要に応じてのケース会議や全体研修などを今後も続けて行く。 ・今後もさらに深く児童を理解し、実態に即した対応や支援に努める。 ・必要に応じて、教育相談・巡回相談など関係機関と連携を取りながら児童の発達について適切なアドバイスを受けうるようにする。	・研修会やケース会議等を通じて児童理解に努めている。 ・支援方法などについて、幼小が連携を進めていくことが必要である。 ・多様な子どもたちへ支援を行っていくために、人的配置の増員が必要ではないか。
豊かな心・健やかな体	子どもの問題行動への対応	・問題行動に対する指導体制を充実させる。 ・いじめの未然防止、早期発見、早期対応に取り組む。	・児童を理解し、指導の徹底を図る。 ・関係機関と密に連絡を取り相談する。 ・いじめアンケート調査を年2回実施する。 ・不登校児童の情報を全職員で共有する。 ・家庭でのゲームやスマホの使用のルール作りを相談する。	・校内研修を年に2回以上行う。 ・児童アンケートにおいて「自分を大切にすることや他の人への思いやりについて教えてもらっている」との回答が85%以上になる。 ・児童アンケートにおいて「学校へ行くのが楽しい」との回答が90%以上になる。 ・不登校対策委員会を年に3回以上行う。 ・ゲームやスマホの使い方のルール作りが70%以上の家庭でできている。	B	・生活指導、人権の研修会を年二回実施することができた。 ・月に1度の生活指導部会で、各学年の状況を情報交換し、問題行動や不登校について共通理解する機会を持った。 ・児童アンケートの「自分を大切にすることや、他人への思いやりについて学んでいる。」では、92%が学んでいるという結果であった。 ・「学校へ行くのが楽しい」のアンケートでは、児童の回答が88%で、保護者の解答が92%となっている。 ・いじめアンケートを年2回実施し、問題の早期発見、対応、解決を行うことができた。 ・不登校対策委員会を月一度の部会と重ねて、毎月情報交換をする不登校対策委員会を行うことができた。しかし、コロナ禍で不登校児童の深刻な問題も起きている。 ・家庭でのゲームやスマホ、タブレットの使いかたのルールーづくりに対しての調査は実施できなかった。	・今後も児童の実態把握のために、生活指導部会・不登校対策委員会などを行い、きめ細かい対応をしていく。 ・「学校へ行くのが楽しい」は目標の90%を達成できていないので、その原因をさぐる必要がある。そのためには、子どものより良い成長のために保護者や地域との更なる連携が必要である。 ・不登校対策委員会で話し合った内容を全職員と共通理解し、児童一人ひとりに対応できるような対応を探っていく。 ・一人に一台のタブレット配布に伴い、その使用方法などに課題が見られるため、学校だよりや学年通信などで保護者と連携を取っていく。 ・ゲームやスマホ、タブレット使い方の基本的ルールを設定し、調査していく。	・保護者や地域との更なる連携を図るためには、情報発信が必要。 ・「学校へ行くのが楽しい」の項目に否定的な回答をした児童の状況をつかむ必要があるのではないか。 ・家庭でのゲーム、スマホ、タブレットの使い方についての調査を行って欲しい。
	健康教育の充実	・児童の体力の向上を図る。	・授業で、各学年に応じた運動プログラムを取り入れる。 ・全校業間縄跳び大会を実施する。 ・各学年に応じた運動プログラムをより具体的で簡単な内容にし、研修等で紹介し合う。 ・業間遊びを計画的に取り入れる。	・教職員アンケートにおいて「学年に応じた運動プログラムを取り入れている」との回答が90%以上になる。 ・全校業間縄跳び大会を年3回実施する。	B	・教職員アンケートの「学年に応じた運動プログラムを取り入れている」は100%できたの結果が得られた。 ・コロナ禍において制約があるものの体育の授業が工夫されながら行われ、体育大会も実施することができた。 ・全校業間縄跳び大会については、コロナ禍で行うことができなかった。また、業間遊びも各クラスの実態にまかせ、全校で計画・実施をすることができなかった。 ・各学年に応じた運動プログラムを研修する機会は持つことができなかったが、研究の中でクロスカリキュラムとして5年生が体育を実施し、研究会を持つことができた。	・今年度もコロナ禍の影響で、業間遊びのみんな遊びや交流会、長縄大会など実施できないことが多くあったが、今後様子をみながら、実施できることを検討していく。 ・体育大会については、様々な方面からより良い実施方法を検討し実施できるようにする。 ・委員会を中心に『みんなでジャンプ』の大会を行ったり、外遊びの遊具の貸し出しなどを行い、外遊びを推奨した取り組みを行う。	・コロナ禍のため様々な制限がある中、「運動プログラム」も含め、工夫した体育の授業が行われている。 ・コロナ禍のため実施できなかった行事等が多かったと思われる。児童に対する心身両面からのフォローをお願いしたい。
	健全な食生活の推進	・食生活に関心を持ち、健康に生活しようとする児童を育成する。	・食育を給食の時間や授業において推進する。	・児童アンケートにおいて「毎朝朝食を食べている」との回答が90%以上になるように働きかける。 ・給食の残食がなるべくゼロになるようにする。	A	・児童アンケートの「毎朝、朝ごはんを食べている。」は93%、保護者アンケートでは94%の結果である。 ・2年生は、給食センターから栄養士さんを2度講師に招いて食育指導を行い、朝食の大切さについて学習することができた。 ・残食ゼロについては、調査することができなかったが、コロナ禍の給食では感染予防のための『黙食』をすることが定着している。	・栄養教諭と連携し、授業で食事や栄養について取り扱ったり、給食センターからの献立に関するプリントを使用したりして、より食に関する関心を深めていく。 ・食育の学習を学年に応じて進める。 ・今後もコロナ感染予防のための『黙食』の大切さを児童に伝え、給食の時間の過ごし方について考えていく。	・児童及び保護者に対する食育指導の成果がよく出ている。 ・黙食ではあるが、みんなと一緒に食べることにより、苦手なものも食べることができている。
開かれ信頼される学校園	学校情報の発信	積極的に学校情報を発信する。	・学校だよりを発行し、地域にも配布する。 ・ホームページにより学校の情報を積極的に発信する。 ・マナーや生活のきまりを学校だよりに月目標として掲載する。	・学校だよりを月１回以上発行する。 ・ホームページを月１回以上更新する。 ・保護者アンケートにおいて「学校は、学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」との回答が90%以上になる。 ・保護者アンケートにおいて「学校は、保護者の願いに応えている。」との回答が90%以上になる。	B	・学校だよりは月に1回発行できた。 ・ホームページで機会あるごとに学校の様子を知らせることができた。急なお知らせは『ミマモルメ』を利用して保護者に伝えた。 ・保護者アンケートの「学校は、学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている。」で94%の結果となった。 ・保護者アンケートの「学校は、学校・学年だよりやホームページなどを通して学校情報を発信している。」でも91%の結果になっている。 ・保護者アンケートの「学校は、保護者の願いに応えている。」の結果は、Aが27%Bが60%で合計が87%の結果となり、昨年度と比べて7%減少している。	・これからも積極的に学校の情報を発信していく。 ・学校だよりや学年通信、ホームページで学校生活の様子を知らせていくようにする。 ・「保護者の願いに応えている。」の結果の減少の理由を考察するとともに、本年度実施できてなかったが、学級懇談会や参観日などを利用して学校の様子を伝えていく。	・ホームページ等を通じて学校の様子を見ることができるのはよい。今後も、学校便り、ホームページの内容の充実することにより、こどもの環境、学校の様子を肌で感じることにより、学校により関心を持ってもらえるようにすることが大切ではないか。 ・参観や懇談がコロナ禍で実施できなかったのは残念であった。

・タブレットを効果的に活用し、児童が主体的に取り組むことができる授業づくりに取り組む。
・家庭での読書を勧めるため、児童及び家庭に向けた情報発信に取り組む。
・特別支援教育を推進していくため、関係機関と連携を図りながら児童の実態に即した対応や支援に努める。
・不登校児童についての情報共有を行うとともに、関係機関との連携を図りながらきめ細かな対応を進めていく。
・今後も感染状況を踏まえながら、学年に応じた運動プログラムを行っていく。
・栄養教諭との連携を図りながら、食育を進めていく。
・今後も学校生活の様子をホームページ等を活用しながら積極的に発信していく。

自己評価の基準　**A**：目標を上回った　**B**：目標どおりに達成できた　**C**：目標をやや下回った　**D**：目標を大きく下回った